Ⅱ．メディア・ジャーナリズムプログラム

１．設置の趣旨と教育の目的

本プログラムは、長谷川如是閑や杉村楚人冠といった日本の歴史に残る著名なジャーナリストを輩出した中央大学の伝統を継承しつつ、インターネット時代に対応し活躍できる記者、ドキュメンタリーや映画のディレクター・プロデューサー、アナウンサー・キャスター、広告業界のプランナーやクリエイティブ・ディレクター、出版業界の編集者などのほか、著作権や表現の自由などメディア関連法務に詳しい人材を育成することを目的としています。

中央大学は、1909 年に新聞学科を設置しました。日本では、最も早くメディア・ジャーナリズム研究と人材育成に取り組んだ大学のうちの 1 つです。これまで、東大、早慶とともに、メディア業界に多数の人材を輩出してきました。しかし、1978 年の多摩全面移転以降、大学における育成プログラムの消滅、OBOG との関係希薄化によって、メディア業界へ進む学生の数は激減してしまいました。

このため、2003 年に「FLP ジャーナリズムプログラム」を開設し、実践的な育成プログラムを展開してきました。その結果、本プログラムを受講した後、朝日・毎日・読売などの新聞社、共同・時事などの通信社、NHK・民放などの放送局、電通・博報堂などの広告代理店、講談社・文藝春秋などの出版社に就職した学生の数は 100 人以上に及んでおり、本プログラムは確実に実績を出し続けています。

２．2024 年度演習科目担当者および履修者数

連番	氏名	所属学部	FLP 演習A	FLP 演習B	FLP 演習C	総計	実施形態
1	岩隈　道洋	国際情報	2	－	－	2	単独(A)
2	松野　良一	国際情報	7	2	5	14	単独(A・B・C)
3	石山　智恵	国際情報	11	5	4	20	単独(A・B・C)
4	杉浦　信之	全学連携教育機構	7	8	1	16	単独(A)合併(B・C)
5	山崎　恆成	全学連携教育機構	17	9	10	36	単独(A)合併(B・C)
合　計			44	24	20	88	

３．プログラムスケジュール

5 月　　第 1 回部門授業担当者委員会

7 月　　ガイダンス（一年次生向け）
　　第 2 回部門授業担当者委員会

11 月　　2025 年度募集に伴う選考試験

12 月　　第 3 回部門授業担当者委員会
　　学内活動（期末成果報告会）

3 月　　FLP 修了発表
　　FLP 修了証書授与

４．プログラムの活動

期末成果報告会

実 施 日:　2024 年 12 月 14 日(土)15:10～

実施場所:　中央大学　市ヶ谷田町キャンパス 401 教室（ハイフレックス形式）

実施内容:　各ゼミによる年度活動報告

５．これまでの履修生の主な就職・進学先実績

日本放送協会（NHK)、日本テレビ放送網、テレビ朝日、TBS テレビ、テレビ東京、北海道文化放送、秋田テレビ、福島中央テレビ、信越放送、中部日本放送、中京テレビ放送、東海テレビ放送、富山テレビ放送、北陸放送、MBS 毎日放送、高知放送、TBS スパークル、日テレアックスオン、テレビ東京制作、共同テレビジョン、日本テレビ音楽、エフエム愛知、WOWOW、東北新社、IMAGICA、JCOM、沖縄ケーブルネットワーク、朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、時事通信社、北海道新聞社、中日新聞社、中国新聞社、岐阜新聞社、京都新聞社、新潟日報社、小学館、講談社、集英社、文藝春秋、光文社、白泉社、ダイヤモンド社、有斐閣、NHK 出版、ベネッセコーポレーション、ぴあ、リクルート、電通、博報堂、ADK、読売広告社、東急エージェンシー、メトロエージェンシー、京王エージェンシー、電通テック、博報堂プロダクツ、PRAP JAPAN、サイバーエージェント、電通デジタル、ホリプロ、マイナビ、NTT 東日本、NTT データ、NTT ドコモ、KDDI、ヤフー、任天堂、ニフティ、三菱商事、三菱自動車、日本銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、三菱東京 UFJ 銀行、日本政策金融公庫、東京海上日動火災保険、損害保険ジャパン日本興亜、ソニー損害保険、明治安田生命保険相互会社、野村総合研究所、アクセンチュア、デロイトトーマツコンサルティング、野村証券、富士通、リコー、キヤノン（Canon)、凸版印刷（TOPPAN)、サントリー、アサヒビール、日本航空（JAL)、全日本空輸（ANA)、東日本旅客鉄道（JR 東日本)、京王電鉄、小田急電鉄、オリエンタルランド、日本 IBM、サイボウズ、ファーストリテイリング、地方公務員（県庁・市役所など)、早稲田大学大学院、中央大学大学院（文学研究科、総合政策研究科）など

６．演習教育活動

（１）岩隈　道洋（国際情報学部・教授）

ＦＬＰ演習Ａ

＜テーマ＞

メディア・ジャーナリズム・ICT の法と倫理

＜授業の概要＞

本 FLP 演習は本年度（2024 年度）に初開講したもので、下記授業概要執筆時には学習・活動内容について未知の要素が多い状況であった。

集まってくれた学生諸君の関心に応じて内容を考えたいと思っていますが、教員の力量の問題で、メディア・ジャーナリズム・ICT に関する法学中心のテーマとなることは意識しておいてもらいたいと思います。

最初は、長谷部・山口・宍戸編「メディア判例百選」別冊ジュリスト No.241,有斐閣(2018)の中から受講生が選んだ判例を調査・報告してもらうところから始めたいと考えています。次学期以降、そのままメディア判例を徹底的に研究し続けるという方向性もあるかと思います。(法学の基礎を持たない受講生には、基本的なトレーニングも行います。既修者はそのチューターになって下さい。)

最初の半年が終わった段階で、各受講生の関心に応じてテーマを選んでもらい、卒業までの間にそのテーマのリサーチペーパーまたは論文をまとめてもらいたいと思います。次年度以降は各自のテーマについて継続的に進捗を報告してもらうことになります。共同研究や海外調査も、必要なら大いに歓迎します。

リサーチペーパーまたは論文は、受講生の関心によって、公法関係だけではなく、民刑事法、法情報学や情報倫理、図書館学、比較法文化といったテーマを選ぶことも可能です（メディア・ジャーナリズムとの接点はもちろん必要です)。

実際に 2024 年度に何ができたかについては、以下に記す。

＜活動内容＞

2024 年度 FLP 演習 A 岩隈ゼミは、法学部 1 名、国際情報学部 1 名の計 2 名の参加があり、4 月の段階でどのような学習を進めたいかについて、上記授業概要をベースにメンバーに考えてもらうところから始めた。いずれのメンバーも、所属学部で専攻しているのは法学分野であることと､近時の学生にしては珍しく､テレビ放送のしくみに興味があるということだったので、まずは日本の現行放送法（昭和 25 年法律第 132 号）の体系的な理解から進めてゆくこととした。

曽我部ほか『情報法概説(第 2 版)』弘文堂(2019)や鈴木・山田『放送制度概説』商事法務(2017)の輪読・発表で、日本の放送制度に関する基本的な知識を習得することと並行し、憲法上の表現の自由との関連性や、近年発達の目覚ましいインターネットを中心とする電気通信手段を用いた画像や音声の配信に関わる制度との違いなど、少しずつ各自の最終研究テーマの設定に向けた周辺分野の知識との接点や、関心事項についての考察を毎週のディスカッションによって練っているところである。

＜実態調査・見学調査・講演会＞

対象演習：A

実 施 日：2024 年 9 月 9 日(月)～2024 年 9 月 12 日(木)

実施都市：ソウル特別市（大韓民国）

実施場所：韓国放送公社、韓国国会議事堂、青瓦台、景福宮、N ソウルタワー・他

実施内容：今年度のキャンパス内の学期中の学習においては、日本放送法の理解を進めることを主たる対象としてきたが、受講生たちから､「何か比較対象がないと、検討を

深めることが難しいのではないか」という声が上がった（法学の教員としては、受講生から内発的に、アカデミックな法学方法論の重要な一つである比較法学への関心が出てきたことは驚きでもあり、喜ばしいことでもあった）ため、比較に相応しい法制度のある国・地域の検討を行ってもらったところ、日本の戦前の放送制度から、国家の独立とともに自国の放送制度を再編成し、日本の現行放送法と並行して異なる発展を遂げた大韓民国の放送法を比較対象として選定した。韓国放送法に関しては、大学レベルの専門的な学習・研究に資する水準の日本語・英語の資料に乏しく、一方で一衣帯水の距離にあり、実際に訪問調査することによる情報収集や体験学習としての成果が期待できることから、大学夏季休業中の韓国実地調査を計画・実行した。放送制度は、その国の法制度（特に憲法や行政法）とのかかわりが深く、特に国営放送に関しては議会や行政府との実務的な関係も深いため、放送局のみならず、関係国家機関をも対象とした。また、放送はその国の文化の一部であり、その理解を深めるとともに、学生たちの韓国文化に対する現代的な関心も考慮し、韓国文化やその歴史に触れることができるような訪問先も追加している。

＜大韓民国国会議事堂(대한민국 국회의사당/テハンミングク ククェウィサダン)＞

訪問のためには要予約。ソウル市を東西に流れる漢江(한강/ハンガン)の南西岸中洲・汝矣島(여의도/ヨイド)の上に立地している。

1975 年に竣工した白亜のファサードと建物本体の中心部に、議場のドーム天井をあしらった国会議事堂は、1990 年代のソ連解体後に韓国との政治経済関係が深まっているウズベキスタンを皮切りに、トルクメニスタン、カザフスタン等の中央アジア諸国そしてウクライナの国民議会議事堂のデザインに影響を与えている。

予約の時間に余裕を持って伺ったのだが、物々しい警備体制で驚く。偶々カンボジアの偉い人が訪問するタイミングと重なったようで、指定されていた入口方面に向かうと難なく通過させてもらえた。集合場所には小中学生が団体バスで乗り付けて沢山待っている様子。

荷物の透視チェックとパスポートチェック、予約確認の後、首から下げる参観証を渡されて、カフェもある待合室で待機。中学生 3 クラス・親子連れ 2 組計 5 名・英語圏からと思しきカップル 1 組、そして岩隈ゼミのグループで参観となるようだ。外国人組にはいちいち英語で指示が飛ぶので、参観時も英語ガイドがあると思って安心していた。

指定時間になり、ゾロゾロと韓国の中学生に混じって議事堂の階段を登ってゆく。3 フロアくらい登って、本会議場に入る。韓国国会は一院制なので、本会議場も一つ。かなり広い傍聴席に座るよう指示され、席選びにキャッキャと騒ぐ中学生達を微笑ましく見守りながら、スタッフの説明を待つ。

議長席の背後の壁面には韓国国花ムクゲ(무궁화/ムグンファ/無窮花)の中心に国会/국회/ククェの字が書かれた紋章が架けられ、全ての議員席にはタッチスクリーン端末が装備されている。左右の壁面にはガラス越しに通訳・報道席や貴賓席がある。

説明が始まったが、オール韓国語。今回の FLP 岩隈ゼミメンバーは担当教員含め全員が、ナチュラルスピードのネイティヴによるオーラル韓国語を聞き取れるほどの力を持っておらず、入口でもらっていた韓英パンフレットを見ながらなんとか話について行くのが精一杯であった。英語圏カップルは 10 分も待たずに退散。時々スタッフの呼びかけに元気よく中学生が答えるのを見て、なにか社会科的な用語について問答していそうな雰囲気を感じる。

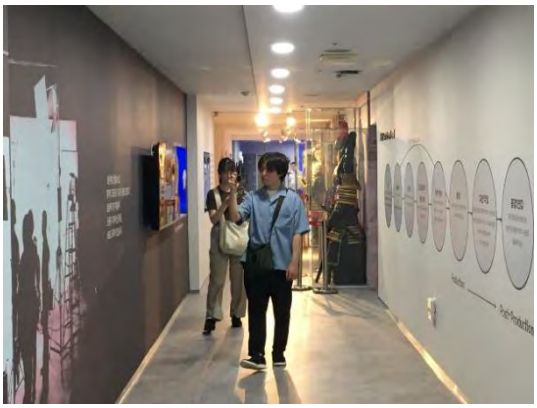
説明を終えて、写真撮影タイムの後、読会室（日本国会の委員会室に相当）の並ぶ廊下を通って、通用口まで戻り、参観証をお返しして終了。外国語解説が無かったのは寂しかったが、スタッフの対応は丁寧で、親切だった。

＜韓国放送公社 KBS＞

今回のゼミ韓国調査旅行のメインイベントが、この KBS(한국방송공사/韓国放送公社/Korean Broadcasting System)訪問。国会議事堂と同じ汝矣島(여의도/ヨイド)に立地しており、日本の NHK に相当する公共放送局でもある。一方で 1980 年代の全斗煥(전두환)政権期に民放複数社を合併した経緯もあり、番組には CM が流れる(つまり国営放送でありながら、運営資金には広告収入も含まれる)など NHK の仕組みや放送番組との偏差もある。

社屋内には、局外者向けの広報・教育施設である KBS-ON があり、通り一遍の見学をするつもりだったが、予想外の大ボリュームのコンテンツやアトラクション・学習資源展示があり、驚いた。

その内容たるや、番組カテゴリー(報道・ドラマ・娯楽・音楽・スポーツ・児童・ラジオ)ごとの展示や参加型アトラクションに加え、クロマキー撮影や模擬アナウンスブース、KBS ラジオスタジオや KBS 交響楽団の収録や練習風景をガラス越しにリアルタイムで覗けるコーナー、アナウンサーのプロフィールがすぐ確認できるタッチスクリーン、放送機材の博物館的展示など、数時間滞在してしまうだけの質と量を誇るものだった。学生達も楽しみつつ大いに情報収集に勤しんでいた。



＜大韓民国大統領官邸・青瓦台(청와대/チョンワデ)＞

実際に官邸として使われていたのは 2022 年までで、現在は予約制で官邸施設と庭園が一般公開されている。国会議事堂同様、荷物の透視チェック、予約確認書のバーコードチェックを経て、域内に入ることができる。

赤絨毯の階段や会議室、会見室、執務室などが公開されている。初代大統領李承晩から前大統領文在寅までの歴代大統領の肖像画の部屋もあったが、学生諸君は朴正熙・全斗煥・金

大中辺りの大統領の顔もわからなかったようだ。

また同じ敷地内で、少し斜面を上がったところには大統領一家の生活の場であった公邸もあり、内覧はできないものの外観は側から一周でき、一部窓から内側(食堂や理髪室、資料室、書斎など)を見ることもできる。

観覧できる施設には必ず給水設備やトイレがあり、いくつか冷房の効いた休憩所も設置されており、見学者に優しい環境が作られている。

＜景福宮(경복궁／キョンボックン)＞

李氏朝鮮の王宮、景福宮(경복궁／キョンボックン)は、青瓦台と道路を隔てた南隣にあるため、見学は容易だったが、宮域内は日陰になるところが少なく、大変暑い中の見学となった。

1395 年に太祖(初代国王)李成桂(이성계/イソンゲ)の命で建設された漢城(한성/ハンソン：ソウルの漢名)五大宮闕(宮殿)の中で最北に位置し(君子は南面することから宮殿の中でも最も権威がある)、実際に規模も最大に保たれてきた。

一方、1592～1598 年の文禄・慶長の役(壬辰倭乱)によって景福宮は豊臣秀吉の派兵した部隊の一部に焼き討ちされ、また近代に入ってから 1895 年の閔妃暗殺事件(乙未事変)でも日本憲兵隊によって蹂躙され、1910 年の韓国併合以前から、日本に攻撃を受けた国民的記憶と共にある文化遺産の一つであるともいえる。

現在は施設自体が博物館として一般の見学に開放されている。特に、チマチョゴリやパジチョゴリ、ツルマギなどの韓服(한복/ハンボク)を着てから入場すると、景福宮を含む漢城五大宮闕と宗廟(歴代王族の墓廟)の入場料各 3000 ウォンが無料となるサービスも行われている。景福宮周辺には韓服時間貸しのお店が沢山ある。

＜曹渓寺(조계사/チョゲサ)＞

韓国最大の仏教宗派、曹渓宗の総本山・ソウル曹渓寺(조계사/チョゲサ)訪問。日本や中国の仏教宗派でいうと、臨済禅宗の一派である。境内には信者向けに座禅堂や仏教情報センター、

外国人観光客向けインフォメーションデスクがあるなど、外部に開かれた寺院といえる。インフォメーションデスクでは、日本人向けに御朱印の対応もしていて、今回は担当の英語堪能なおばさんがハングルでチョゲサと墨書(マジックでしたが)してくれた。

また宗教法人としての曹渓宗の本部ビルも境内にあり、ここで僧侶の養成も行っている。また、テンプルステイ（宿坊）も行なっており、宿泊しながら勤行や座禅、作務などプチ修業体験もできる施設も持っている。

通りを一つ跨いで東側には、仁寺洞(인사동/インサドン)という門前町があり、書道具や茶道具の店が立ち並ぶ。李朝期には両班(貴族)の屋敷が多かったこともあり韓屋も残っている。日曜日は歩行者天国になり、文化を感じながら散策するのにも向いている。

＜N ソウルタワー＞

ソウル南山に立つテレビ塔、N ソウルタワー。FLP 演習韓国調査最終日は民放各社の集中地域メディアシティの訪問を考えていたが、快晴猛暑のこれまでの日程では考えられないくらいの大雨で、かつ午後は帰国フライトとの関係で荷物を持って動くことになるため、宿泊地

の乙支路三街からの距離などを勘案して、最後の見学をこのテレビ塔にした。

雨天ではあったが、ソウル市内を一望できる展望室は、学生達にとっても、ソウルに別れを告げるのに相応しかった様子。この後、金浦空港から羽田空港に無事帰国した。

成　　果：3 年間の FLP 演習の中の 1 年目なので、卒業時を目指した研究成果には程遠いものの、年末の FLP 演習の成果報告会において、放送制度の中でも、日本での関心の高い国営放送 NHK の仕組みと、韓国 KBS の仕組みの比較報告を行うことができた。本プログラムに相応しい、放送コンテンツに関する検討はできなかったが、法学研究者が指導教授となる本 FLP 演習の特色として、制度面からのアプローチを主として、メディアや文化の面を浮き彫りにする方法を模索する中での中間報告としたい。

（２）松野 良一（国際情報学部・教授）

ＦＬＰ演習Ａ・Ｂ・Ｃ

＜テーマ＞

ドキュメンタリー制作及びノンフィクション執筆の実践

＜授業の概要＞

1, ドキュメンタリー制作

2, 国内外取材プロジェクトの遂行とアウトプット

3,『中央評論』のグラビア、特集などへの執筆、出版活動

＜活動内容＞

多様な能力開発及びジャーナリストマインドの育成のために、実践的な活動を行なった。主として、①実際にネット配信及びケーブルテレビで放送するための番組 制作、②各種活字メディアへの執筆活動、を 2 本柱とした。

1) 番組制作については、「多摩探検隊」及び「にっぽん列島探検隊」用のドキュメンタリーを制作した。視聴世帯可能世帯数は、「にっぽん列島探検隊」はイッツコム系列の約 100 万世帯である。「多摩探検隊」は 2004 年から多摩地区のケーブルテレビで放送を開始したが、2019 年度にケーブルテレビ放送を休止し、YouTube 配信へ移行している。

2) プロジェクト「特攻と中央大学」の継続。太平洋戦争において特攻戦死した中央大学学徒を割り出し、彼らの物語を掘り起こし、活字化・映像化することで、後輩たちに記憶をつないでいくことを目的とした。2021 年度に開始し、2025 年 3 月現在も継続中である。

(1) 特攻戦死した中央大学学徒について、防衛研究所、国会図書館などに保存されている戦闘詳報等の記録を総合的に調査した（陸海軍別の正確な戦死者数の割り出し等）。

(2) 全国の記念館、資料館や史跡などを調査し、特攻戦死した中央大学関係者の遺影、遺書、遺品等がどこにあり、どのように保存・展示されているかを明らかにした。

(3) 上記の活動によって収集した資料・史料、遺族の証言などから、特攻戦死した中大学徒の物語を掘り起こし、活字化、ドキュメンタリー化を行った。特に、10 名の遺族関係者へインタビュー調査活動は、『中央評論』（2025 年春号、331 号）の特集「特攻で散った中大生たち―みんな、夢があった…」の刊行につながった。

また、「わだつみのこえ記念館」主催の講演会（12 月 1 日）で「戦争の記憶をつなぐ」をテーマに、FLP 松野ゼミ生が発表・上映を行った。

3) 執筆活動については、学内のメディアである『中央評論』グラビアに、ルポルタージュ4本を投稿し掲載された。

活動の詳細は、以下の通り。

1. 番組「多摩探検隊」制作
YouTube 「多摩探検隊」チャンネルにて配信

配信月	企画	D	番P	進行状況
24年9月	世界最速シニアランナー	森榮	杉村・山﨑	配信中
10月	あしたよなあ―不時着した特攻隊員―	田畑	山﨑	配信中
11月	「南西諸島の空から ―ある特攻隊員の日記―」(30分版)	伊藤	伊藤・藤川 杉村・山﨑	配信中
25年3月	「靖国」に行かなかった特攻隊員	杉村	杉村・山﨑	配信中

2. 番組「にっぽん列島探検隊」制作
CATV「イッツコム」にて放送中

放送月	番組回	使用VTR	番P
24年4月	第66回	帰国か、残留か ～樺太残留邦人の決断～後編	宮下
5月	〃	〃	〃
6月	第67回	故郷よ ～更地となった現場で～前編	宮下
7月	〃	〃	〃
8月	第68回	故郷よ ～更地となった現場で～後編	宮下
9月	〃	〃	〃
10月	第69回	世界最速シニアランナー　前編	宮下
11月	〃	〃	〃
12月	第70回	世界最速シニアランナー　後編	宮下
25年1月	〃	〃	〃
2月	第71回	あしたよなあ ―不時着した特攻隊員―前編	宮下
3月	〃	〃	〃

3. プロジェクト「特攻と中央大学」

活動日程	場所	内容	アウトプット
2021年 5月～	国立国会図書館 防衛省防衛研究所 戦史研究センター 鹿児島県知覧町 他	特攻戦死した中央大学学徒に関わる執筆、映像作品の制作	・特攻戦没者名簿の作成 ・遺品収集状況の作成 ・制作した作品を刊行予定

4. 執筆プロジェクト

中央評論グラビア

掲載時期	執筆者	内容
2024 年春号（327 号）	渡邉美咲	町田に墜落した B29 ―搭乗員捕虜 9 人の謎―
2024 年夏号（328 号）	安徳祐	二重の苦しみを生き抜いて ―ある韓国人被爆者の証言―
2024 年秋号（329 号）	宮﨑翔大	「万華鏡のような台湾」を知った旅
2025 年冬号（330 号）	百武凛花	特攻隊員たちが暮らした「攻空寮」の記録と 残された短冊

5. コンテスト結果について

作品	製作者	時間	内容	コンテスト名	結果
世界最速シニアランナー	森榮爽	31分	青森県にある私(ディレクター)の実家の隣人、田中博男さん 93 歳。一見すると、どこにでもいる優しいおじいちゃん。しかし、彼の正体は、実はマスターズ陸上の世界記録保持者なのだ。小学校教諭として勤務していた田中さんは、定年退職後の 60 歳から陸上を始めた。以降 2 時間、週 5 回の練習を、30 年間継続している。それまで陸上経験はなかったにも関わらず、これまで世界記録を 8 つ樹立している。 幼少期から、会うと笑顔で声をかけてくれた田中さん。私は、彼の人生を追ったドキュメンタリーを制作しようと思い、取材を始めた。高齢になっても新たなことに挑戦し、前向きにトレーニングを継続する彼の姿を通し、視聴者に大きな勇気と笑顔を与えたい。	地方の時代映像祭	一次審査通過
故郷よ～更地となった現場で～	伊藤光雪	44分	2011 年 3 月 11 日東日本大震災。最大震度 7 の地震が発生し、大津波が街を飲み込んだ。そして、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、多くの周辺住民が街を離れ、避難生活を強いられることとなった。高校一年生の時、私はそんな福島県の被災地を初めて訪れた。未だそこには街の姿が戻っていない。そんな事実に衝撃を受け、そこから毎年被災地に足を運ぶようになった。歳を追うごとに、剥き出しの土地がコンクリートで固められ、新たな施設が建設されるようになった。しかし私は、そんなまちの姿に違和感を抱かざるを得なかった。2022 年夏、私は浪江町・双葉町に向かった。異なる立場にある四つの建物とそれに関連する方々にお話を伺うためであった。それぞれの建物には、どのような過去があり、そこで生活していた方々はどのような思いで今の故郷をみているのか。その思いをたどった。	地方の時代映像祭	一次審査通過

6. 松野ゼミについて取り上げたメディア

	掲載紙・番組	取り上げられた活動
8 月 17 日	NHK 総合　NHK スペシャル	『特攻と中央大学』プロジェクトに関する取材

8 月 17 日「NHK スペシャル」にて放送後、NHK サイトに掲載
https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/episode/te/LGZ4WP8G82/

＜実態調査・見学調査・講演会＞
対象演習：C
実 施 日 ： 2024 年 5 月 19 日（日）～20 日（月）
実施都市：広島県広島市
実施場所：広島平和記念公園
実施内容：韓国人被爆者のドキュメンタリー制作のため安徳祐さんへの取材
成　　果：ドキュメンタリー「韓国人被爆者の証言」を制作予定

対象演習：A
実 施 日 ： 2024 年 5 月 25 日（土）～26 日（日）
実施都市：三重県伊勢市
実施場所：若櫻の碑霊園
実施内容：特攻兵と暮らしていた岡出とよ子さんへの取材及び撮影
成　　果：2025 年冬号の『中央評論』グラビアにてルポルタージュを掲載

対象演習：A・B
実 施 日 ： 2024 年 6 月 8 日（土）～10 日（月）
実施都市：北海道札幌市
実施場所：石田力雄少尉のご遺族宅
実施内容：①特攻で戦死した中央大学 OB に関する資料収集及び記録
　　②NHK への撮影協力
成　　果：①石田力雄少尉に関するルポルタージュを執筆。(『中央評論』331 号所収)
　　②2024 年 8 月 17 日（土）に放送された NHK スペシャル「“1 億特攻”への道～隊員 4000 人　生と死の記録～」への出演

対象演習：A・B
実 施 日 ： 2024 年 6 月 24 日（月）
実施都市：茨城県行方市
実施場所：宮内榮さんのご遺族宅
実施内容：特攻で戦死した中央大学 OB に関する資料収集及び記録
成　　果：宮内榮少尉に関するルポルタージュを執筆。(『中央評論』331 号所収)

対象演習：A
実 施 日 ： 2024 年 7 月 3 日（土）～5 日（月）
実施都市：鹿児島県鹿屋市、知覧市
実施場所：鹿屋航空基地史料館、知覧特攻平和会館
実施内容：「梓特別攻撃隊」に関する資料収集及び記録
成　　果：映像作品「梓特別攻撃隊　～3000 キロ特攻の新事実～」を制作予定

対象演習：A
実 施 日 ： 2024 年 7 月 12 日（金）
実施都市：神奈川県相模原市
実施場所：小林茂雄中尉のご遺族宅
実施内容：特攻で戦死した中央大学 OB に関する資料収集及び記録
成　　果：小林茂雄中尉に関するルポルタージュを執筆。（『中央評論』331 号所収）

対象演習：A
実 施 日 ： 2024 年 7 月 28 日（日）
実施都市：静岡県賀茂郡
実施場所：介護事業所ヒストリア
実施内容：特攻で戦死した中央大学 OB に関する資料収集及び記録
成　　果：佐藤利男少尉に関するルポルタージュを執筆。（『中央評論』331 号所収）

対象演習：A
実 施 日 ： 2024 年 7 月 29 日（月）
実施都市：東京都文京区
実施場所：わだつみのこえ記念館
実施内容：「わだつみのこえ記念館」への取材及び調査
成　　果：『中央評論』331 号グラビアにてルポルタージュを掲載

対象演習：A・C
実 施 日 ： 2024 年 12 月 1 日（水）
実施都市：東京都文京区
実施場所：文京区シビックセンター
実施内容：学生による講演会・上映会の実施
成　　果：「特攻と中央大学」プロジェクトの一環として、成果発表

対象演習：B・C
実 施 日 ： 2024 年 2 月 10 日（月）
実施都市：東京都港区
実施場所：株式会社現音舎
実施内容：FM ワイド番組「おはようサンデー」の収録
成　　果：「特攻と中央大学」プロジェクトの一環として、ラジオ出演

収録の様子

（3）石山　智恵（国際情報学部・兼任講師）

ＦＬＰ演習Ａ・Ｂ・Ｃ

＜テーマ＞

“パブリックスピーキング”のスキルと社会を切り取る「視点」を身につける

＜授業の概要＞

本演習の最大の目的は、「パブリックスピーキング」のスキルを身につけ、大学生として、また社会人として、その技能を生かすことである。パブリックスピーキングにおいては、親しい仲間内の会話とは異なり、不特定多数の人に、わかりやすく、的確に情報を届けることが重要となる。“伝え手”は、「正しく、美しい日本語」の使い手であることが求められるほか、 情報を、道筋を立てて、過不足なく伝える力を身につけることが大切となる。

腹式呼吸を使った発声法を学び、実際に放送で用いられるニュース原稿などを使った「読みの演習」のほか、制限時間を定めた自己 PR、テーマを決めたフリートークの発表などを行い、「伝わる・響く」プレゼンテーションの力を養成する。

また、番組制作を通して、“伝え手”に不可欠な、社会の現象や課題を独自に切り取る、「視点」の獲得も目指す。独自の視点 で「ネタ」を探し、取材リサーチを行い、テレビリポートを実際に制作、発表までを行う。視聴者、リスナーに、深い気づきと考える材料を提供できる情報発信者となることを目指す。そのほか、社会の第一線で活躍するゲストスピーカーを招聘し、未知の分野への理解を深める。

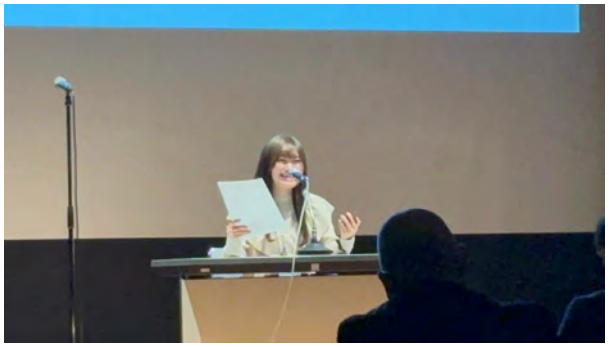
＜活動内容＞

履修生は、2 年生 11 名、3 年生 5 名、4 年生 4 名の計 20 名。前期は、発声や発音、アクセント、口調など、アナウンスの基礎をテキストを使用した座学で学習した他、実際のニュース原稿を用いて、実践的なアナウンス技術の習得を行った。誤読、誤使用の多い日本語表現についても学んだ。自己表現力と、「わかりやすく伝える」 技術を習得する実践では、300 字程度の自己 PR と、900 字程度のフリートークの執筆と発表に取り組んだ。そのほか、より豊かな表現力を磨くため、落語に挑戦したり、アナウンサー採用面接で実際に出題された、与えられた漢字一文字から自己 PR をする演習を行うなど、多角的な アプローチで、表現力強化をはかった。

夏以降は、第 41 回 NHK 全国大学放送コンテスト・アナウンス部門に、石山ゼミとして初めて参加した。エントリー11 名。身近なテーマで自ら取材し、1 分半のニュース原稿を執筆。アナウンス訓練を経て録音、提出した。アナウンス部門全国 235 名の応募の中から、本ゼミ長、4 年生の加藤彩夏さんが予選突破を果たし、本選出場の 8 名に選出された。12 月 8 日に京都で開催された本選では、事前課題のほか、当日渡されるニュース原稿課題にも挑んだ。惜しくも 3 位入賞は逃したが、非常にハイレベルな最終選考で「奨励賞」を受賞した。

＊加藤彩夏さん　「人の輪をつなぐ“福たすプロジェクト”」

中央大学 FLP 小林ゼミが、11 年前から、秋田県の Ｊリーグチームと共同で取り組んでいる、スポーツを通して、地域の高齢者を元気にしようという活動について取材。



夏休み期間を活用し、今年度も、2 泊 3 日の学外演習を実施した。行き先は、ゼミ生全員から企画提案を募り、発表、審議した結果、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県・女川町に決定。昨年度の広島学外演習の反省を生かし、より早くからリサーチ、取材に取り組み、構成検討も重ねて、現地での取材に臨んだ。4 班に分かれ、取材、構成、編集、ナレーション入れ、スタジオプレゼンテーションを行い、4 本×10 分弱の企画リポートを伝える、特別報道番組を完成させた。

＜実態調査・見学調査・講演会＞

7 月 6 日と 13 日には、外部講師を招き、特別講義を行った。内容は、下記の通り。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 7 月 6 日(土)
講 演 者：佐藤　敏郎 氏(大川伝承の会共同代表)
演　　題：「3.11 を学びに変える」
実施施設：中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 401 教室　(オンライン)
実施内容：2024 年度の学外演習において、東日本大震災の被災地、宮城県女川町で取材を行うのを前に、3.11 の津波被害についての理解を深めるため特別講演を実施した。講師の佐藤敏郎氏は、宮城県の教員として、東日本大震災当時、宮城県女川第一中学校に勤務。震災後は宮城県の防災教育副読本の編集委員も歴任した。また、佐藤氏は、震災で当時大川小学校 6 年の次女を亡くされ、大川伝承の会共同代表として、津波被害の恐ろしさと災害への備え、発災時の適切な対応の重要性、そして「命」の大切さを伝え続ける活動を行っている。多くの犠牲者を出した大川小学校の被害から、私たちは、未来に向けてどんなメッセージを発信し続けるべきか、メディアのあり方も含め、学び、考える機会となった。
成　　果：ゼミ生は、13 年前の東日本大震災発生当時、小学生だった世代である。大川小学校の津波被害で犠牲となられた佐藤氏の娘さんを含む、当時の小学生たちとは、ほぼ同世代となる。2011 年 3 月 11 日、津波発生から大川小学校に津波が到達するまで、「51 分」あったにもかかわらず、8.6m の津波に児童・教員が襲われ、74 名の尊い命が犠牲になった事実を、佐藤氏の魂のこもった言葉と写真を通して学び、ゼミ生は、それぞれに大きく心を揺さぶられた様子だった。それぞれが、特別講演を通した学びや感想、夏の学外演習での目標などをレポートにまとめた。講演の中で紹介された、当時の小学生が綴った俳句などを通して、被災当事者の思いに、より深く想いを寄せることが出来た。特別講演で学んだことを、9 月の学外演習に生かすことにつながった。

佐藤氏には、9 月の学外演習初日にも、今度は、石巻市大川小学校の被災現場で、再び特別講演いただいた。被災の現場を歩きながらの話は、学生にとって、さらに得るものの多い体験となった。防災のあり方について、メディア報道のあるべき姿について、考えさせられる貴重な経験となった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 7 月 13 日(土)
講 演 者：鵜飼　俊介 氏(NHK 人事局)
演　　題：「放送の仕事と未来」
実施施設：中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 401 教室
実施内容：NHK 人事局の鵜飼氏の特別講演は、前年度に続き 2 度目。鵜飼氏が、立ち上げから関わり、プロデューサーを務めた、朝の情報番組「あさイチ」が、どのように制作されるのかや、放送局の成り立ち、そこで働く人たちの仕事のほか、未来の放送のあり方、これからの放送が抱える課題などについて講演頂いた。3 年生は、就職活動におけるインターンシップの最中であり、エントリーや、インターンシップ参加についての具体的な話も伺った。
成　　果：2 度目の特別講演となり、特に就活真っ最中の 3 年生にとっては、一線で長く経験を積んだ鵜飼氏へ、放送の仕事について、突っ込んだ質問ができる貴重な機会となった。就職活動の心構えや準備のほか、エントリーシートの書き方についても、アドバイスを受けることが出来た。当ゼミには、放送業界への就職を希望する学生が多く、具体的かつ、貴重な視座を得ることにつながった。

夏休みを活用し、2024 年 9 月 17 日～19 日の日程で、宮城県・女川町にて学外演習を実施した。詳細は、以下の通り。
対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 9 月 17 日(火) ～9 月 19 日 (木)
実施都市：宮城県女川町
実施場所：シーパルピア女川・他　町内各所
実施内容：東日本大震災の発生から 13 年が経過し震災の記憶の風化が懸念される中、当時小学生だったゼミ生たちによる「震災や津波のことをきちんと知りたい」という思いにより、女川町での取材を実施することを決めた。
20 人のゼミ生が、4 班に分かれ、各班取材テーマを設定して、事前リサーチ、取材先の選定・交渉・アポどり、現地での映像取材ロケに取り組んだ。取材テーマは、1.「13 年前の震災　海と共に生きる復興」2.「“活動人口”増やして稼げる町に」3.「夢を諦めないために　子どもたちの居場所を」4.「スペインタイルで失われた彩りを」の 4 つ。
テーマ 1 では、女川町役場公民連携室長で、震災発生当初から、町の復興を主導してきた青山貴博氏へのインタビューを通して、町の 7 割が津波で壊滅的な被害を受け、827 人が犠牲となった女川町の津波被害の実態を取材。「海と共に生きる」選択をした町の復興の取り組みをリポートした。
テーマ 2 では、町の中心部に建設された複合商業施設シーパルピア女川を運営する、みらい創造株式会社の阿部吉英氏のほか、町外からくる人と町との繋ぎ役を担う、NPO 法人「アスヘノキボウ」、震災後、U ターンして町の活性化に取り組む若者を取材。“稼げる町”をキーワードにした復興の取り組みをリポートした。
テーマ 3 では、「震災のせいで夢を諦めて欲しくない」という思いで作られた子どもたちの居場所、コラボスクール向学館を取材。現在通う、小学 1 年から高校 3 年生までの 25 人のほか、震災直後に向学館に通った卒業生を取材。施設が果たしてきた役割とあわせて、支援を受けて逞しく成長する子どもたちの思いをリポートした。
テーマ 4 では、自ら被災しながらも、スペインタイルの彩りで、町に元気を取り戻そうと工房をオープンさせた阿部鳴美さんを取材。震災時のボランティアの懸命な支援に心動かされ、活動を始めた経緯など、胸に迫るインタビューを行った。

成　　果：百聞は一見に如かず、で、現地での経験全てが、学生たちの血肉となったことだろう。「当事者」の声を丁寧に聞くことの大切さを学び、またそれを、どうしたら、視聴者に最大限伝えることができるのか、取材後の再構成・編集作業には、3ヶ月ほどの時間を費やした。また、今回は、編集の過程で、NHK などで活躍するプロの編集マンの特別講義も実施。プレミアプロを使用した、本格的な映像編集の技術習得にも力を注いだ。字幕テロップ入れ、編集後のナレーションどりにも時間をかけ、見直しや練習を繰り返し臨んだ結果、前年度を超えるクオリティの番組に仕上げることができたとの感想が多数聞かれた。

石山ゼミ 3 年目となる今年度は、パブリックスピーキングや表現力向上に向けた演習のみならず、取材力、企画構成力、編集技術の向上にも力を注ぎ、成果を上げることができた。2025 年度は、意識が高まりつつある学生の要望を、さらに積極的に取り入れながら、新 2 年生を迎え、一層精力的に活動していきたい。

（4）杉浦　信之（全学連携教育機構・客員教授）

ＦＬＰ演習Ａ・Ｂ・Ｃ

＜テーマ＞

ジャーナリズムの担い手を志す学生を中心に、メディアの現状や課題を実践的に学ぶとともに、メディアの柱である情報発信の基礎としての文章作成力を養成することを目指す。

【A 生】

新聞等の既存メディアからネットメディアまでマスメディアの全体状況を理解し、事実を正確に伝える文章力を身につける。

【B 生】

ゼミ A で学んだメディア状況を踏まえ、各メディアの特性とジャーナリズムの課題を考える。文章作成では対立軸のあるテーマで説得力ある文章を作成するための実践を行う。

【C 生】

ゼミ A、B で学んだメディア状況を踏まえ、メディアの公共性・公器性と企業性の両立についての課題を考える。文章作成では様々な課題に適切に対応できる文章を限られた時間内に作成するための実践。

＜授業の概要＞

【A 生】

①課題作文の講評②日々の様々な報道記事の分析・討論③報道媒体の歴史と現在についての講義の 3 本柱。①については、題材や語彙も含めて文章作成の基礎を学び、相互に論評も行います。事実文（報道文）の書き方についても学びます。②は授業直近のトピック的な報道を取り上げ、その内容を分析・討議することで、どのように取材したのか、なぜそれが報道に値するのかを考えます。③はデジタル時代のメディアを、その前史からたどることにより、現在のメディア状況と影響力や問題点を自ら考え、発表することにも挑戦します。

【B 生】

①課題作文の講評②対立軸のある問題に関する時事報道の分析・討論③報道とジャーナリズムの講義の 3 本柱。①は賛否の分かれる時事的なテーマ、解決策の難しいテーマなどで独自の説得力ある文章に挑戦します。②は論点のあるテーマに関する報道を複数の媒体から取り上げ、その根拠や背景を分析・討議します。③はジャーナリズムの現場で起こることがある解決の困難な課題について自らの立場で考え、発表することに取り組みます。

【C 生】

①課題作文の講評②時事報道の分析・討論③報道とジャーナリズムの講義。これまでのゼミでの演習を踏まえ、総合的な演習を行います。メディアの現場に足を運んだり、今に残る戦争遺跡をゼミ全体として視察する計画なども立てます。

＜活動内容＞

【A 生】

前期は、「デジタル時代のメディア」をテーマに、新聞・テレビなどのメディアの歴史と、デジタル化した現状までを概観しながら、「メディアとしての SNS」の特徴についても、自分たちの経験を踏まえて考えた。そのほか、各新聞を読み、「わからない報道用語」について調べたり、各新聞社の社説の違いについても調べた。

後期は、前期のゼミを踏まえ、現在の時事報道の分析、討論のほか、様々な報道ジャンルの特徴や課題について、調査・発表を行い、討論した。具体的には、 ジャニーズ報道、事件報道、フェイクニュースのほか、ジャンル別では、スポーツ報道、政治報道、生活報道、科学報道、ワイドショー報道などを題材にした。

作文は、毎週テーマを決め、「傘」「声」「土」などから後期は時事的なテーマなどで 800 字の作文を手書きで書いて提出。教員が添削して返却し、ゼミ生同士で作文を読みあい、講評

し合った。同じテーマであっても、人によって発想の広げ方も異なり、様々な考えに触れ、自分の視野を広げる機会となった。

【B・C 生】

前期は、「報道とジャーナリズム」を中心に、ゼミ A で学んだメディア状況を踏まえながら、解説記事と論説記事、客観報道、新聞と社説、メディアの権力監視、憲法改正や原発問題、アニバーサリージャーナリズムなどを取り上げ、とくにデジタル時代のメディアに特徴的な課題について議論した。

後期は「ジャーナリズムのジレンマ」をテーマに、実際にあった報道をめぐるトラブルの事例を参照した後、メディアや取材の現場の問題について、ゼミ生が与えられた論点を中心に発表を行った。講義・発表の主な論点は「原発事故が起きたら記者を退避させるべきか」「オフレコ取材をどう考えるか」「取材とセクハラ」などで、正解のないジャーナリズムの現場に立った場合、「自分ならどうするか」という観点で議論した。

作文は、前期と後期を通じて、毎週、事前に提示された時事的なテーマをもとに 800 字の作文を作成・提出して、添削後に教員が講評・指導した。主なテーマは「マルハラ」「もしトラ」「NISA」「アテンション・エコノミー」「配属ガチャ」「線状降水帯」「グローバルサウス」「日本版 DBS」などで、現実のメディアでも取り上げられている論点も参照しながら、自分の考えをまとめる力を高めることに注力した。

学外活動

＜メディア特別講演会＞（計 5 回）

対象演習：A・B・C

実 施 日：2024 年 5 月 21 日、6 月 4 日、7 月 2 日、11 月 19 日、12 月 3 日（すべて火曜日）

実施場所：中央大学　多摩キャンパス

実施内容：現役のメディア関係者をゼミに招き、「特別講演会」という形でメディアの仕事の最新事情を説明してもらうイベントを計 5 回開催した。ゼミ以外の学生にも呼びかけ、Webex も含め、各回 20 人前後の学生が参加した。前期は日本経済新聞社、読売新聞社、共同通信社、後期は朝日新聞社、NHK の計 5 社の現役社員が講師となり、記者の日常やネットへの進出状況などを含め、ゼミ生以外からの質疑応答も交えた活発なやり取りが行われた。

成　　果：既存メディアが置かれた厳しい経営環境にも話が及び、デジタル対応が今後のメディアの生き残りのカギになることなど、メディアごとに異なるアプローチをしている点も理解できた。

＜見学調査＞

対象演習：A・B

実 施 日：2024 年 12 月 1 日(日)

実施都市：神奈川県横浜市

実施場所：日本新聞博物館

実施内容：①**「新聞の現状と、新聞記事の書き方のポイント」の講義受講。**見やすい新聞を書く上でのルールとしての（1）逆三角形…重要なことから書く（2）見出しは題名ではない…記事のポイントを短く記す。具体的にわかりやすく（3）写真、イラストを使う…対象物のサイズ感がわかるように人が映り込んでいるとよい――など。

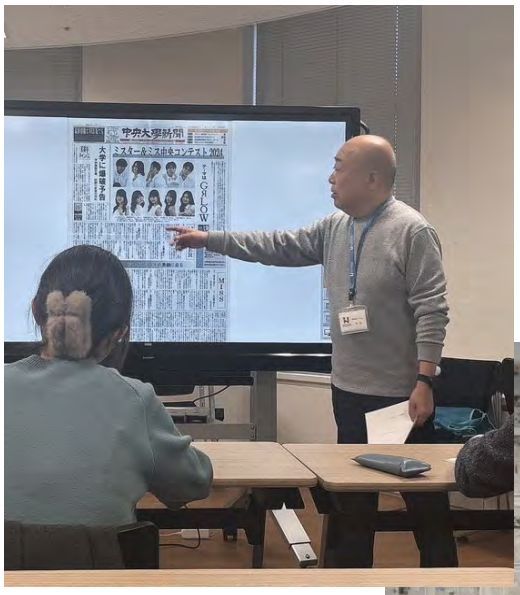
②**「新聞クリニック」受講。**ゼミ生の一部が所属する中央大学新聞学会が発行する「中央大学新聞」と、「中大スポーツ」新聞部の発行する「中大スポーツ」の診断と講評。

③**「メディアの歴史展」見学。**上記講習後、常設展と特別展を見学。展示されている当時の紙面から、激動する歴史の瞬間を実感しただけでなく、新聞の型式やフォントなど、時代とともに新聞が移り変わっていったことや、実際に使用されていた印刷機器や取材の原稿などを間近で見ることができ、技術の進化を体感した。

成　　果：①新聞記事の書き方や、デジタル化や他社との協業などの知識を得た。

②各編集部に所属するゼミ生にとっても、今後の活動に生かせる実践的なことを学ぶことができた。

③展示を通じて新聞の成り立ちや歴史､情報の取り扱いなどを学ぶことで､｢過去｣の新聞だけでなく、デジタル社会における情報との向き合い方について考えるきっかけになった。



＜東京新聞編集局訪問と意見交換＞

対象演習：A・B

実 施 日：2024 年 11 月 25 日(月)

実施都市：東京都千代田区

実施場所：東京新聞社編集局・他

実施内容：前年度の信濃毎日新聞社訪問に続き、24 年度は東京新聞（中日新聞東京本社）を訪問し、編集局を見学したり、第一線で活躍される記者の方々と意見交換した。意見交換の際には、編集局次長、読者部長、社会部記者、経済部記者の方にお話を伺うことができ、「仕事のやりがい」や「理想とする記者像」、「取材先との信頼関係の築き方」など、ゼミ生からの質問に答えていただいた。

成　　果：編集局を見学した際には、フロアを案内していただいただけではなく、翌日の朝刊の構成を決める「編集会議」を一部、見学するという貴重な経験を得ることができた。「客観的か」「裏が取れているか」などの論点を議論しながら、ニュース価値を判断する様子を間近で見ることができた。また、意見交換では、「紙面とデジタルの差別化」など、デジタル時代の報道についての質問にも、多数回答していただき、学生の日ごろの関心に応えていただく機会となった。

（５）山崎　恆成（全学連携教育機構・客員教授）

ＦＬＰ演習Ａ

＜テーマ＞

①映像リテラシー
②ジャーナリズムとドラマとドキュメンタリー
③自分のメッセージ（ドラマ制作）
④テレビと SNS

＜授業の概要＞

①このゼミでは、1 つの作品（ストーリー）の中でどんな映像表現がどのように使われているかを分析することで、映像表現を身に着けます。
英語の学習に「英文法」「英作文」「英文読解」とあるとすれば、「英文読解（精読）」にあたると考えてください。
さらに、映像表現をものにするためには、「多読」も必要です。たくさんの名作（映画、ドラマ、ドキュメンタリー）を観てもらいます。

②優れた映像（ドラマ）作品は、ジャーナリスティックな感覚と時代性に富んでいます。
「今の時代」をどうつかむかの感覚を磨きたいと思います。
そのために街頭インタビューやドキュメンタリーの勉強もします。

③リテラシーを勉強する中で、自分とは何か、自分のメッセージとは何かがきっと見えてくるではずです。
そうしたら、そのメッセージを映像にしましょう。
ドラマ制作に挑戦します。

④SNS の時代ですが、テレビは力を持ち続けています。今後のメディアについて考察します。

＜活動内容＞

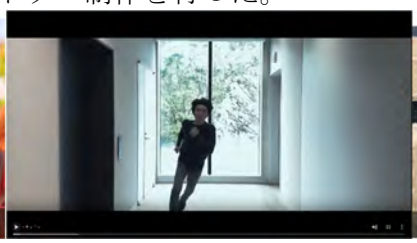
主に、8 つの活動を行った。

（その 1）街頭インタビュー

八王子や多摩センターの街頭で「家族」についての意識調査をおこなった。今後のドラマ制作の礎となるべく今の家族観を探った。質問のしかたが大切であり、「あなたの家族のルールを教えてください」という質問でそれぞれの家族の思いや価値観を引き出すことができた。

（その 2）「家族」をテーマにドラマ制作

街頭インタビューで得たことやそれぞれの家族への思いを基に各自が脚本を書き、俳優として演じ、撮影＆編集をして、ドラマ制作を行った。



（その 3）AI（橋田壽賀子）ドラマ制作について

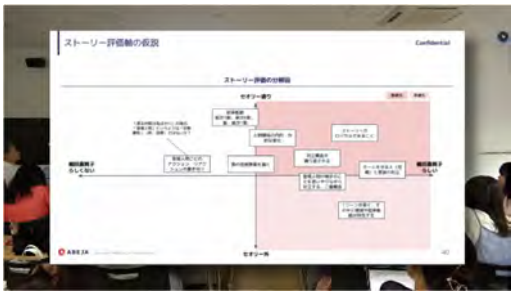
AI が作った脚本をドラマ化するという橋田文化財団の試みに参加協力することで AI とドラマについての見識を深めるプロジェクト。

AI がドラマ制作をすると言っても、方向性やテーマは人間が決めなければならない。橋田壽賀子ドラマの基本は、家族と世代の対立。学生たちと一緒に「どんなときに親と価値観が対立するか」ということを考えた。このドラマは、2025 年 5 月 10 日に橋田壽賀子生誕 100 年記念橋田賞授賞式で初めて公表されるため、詳細は控えるが、学生たちからは家族についてさまざまな考えや思いが出された。それを踏まえて、AI 橋田壽賀子が脚本を書き、プロの俳優を使って、撮影をおこなった。撮影はプロのスタッフがメインで行ったが、撮影補として

カメラの撮影をするなど、学生も参加した。

（その 4）AI についての特別講義

AI 橋田壽賀子プロジェクトを促進している AI 技術会社（ABEJA）から担当者を招き、AI の現状と AI 橋田壽賀子プロジェクトの概要を技術的観点から講義をしてもらった。



（その 5）ストーリーの作り方の特別講義

ドラマであれ、ドキュメンタリーであれ、メッセージを伝えるためにはストーリーが必要である。ストーリーを教えるプロ、たくさんのプロの脚本家を輩出しているシナリオセンターから特別講師（新井一樹氏）を招き、ストーリーの作り方の基本を学習した。

（その 6）ドラマ撮影現場の見学調査

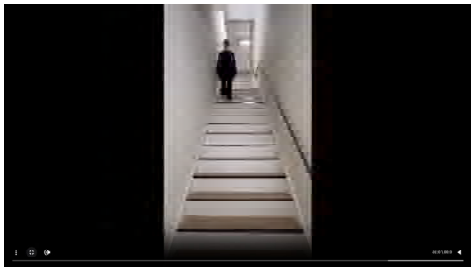
TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」および山田洋次×石井ふく子特別企画「わが家は楽し」の撮影現場の見学調査。監督や俳優に直接話を聞き、エキストラで参加するなど、プロのロケーションやスタジオ撮影の理解を深めた。

（その 7）ミュージックビデオの作成

映像を作る上で、編集はとても大切であるため、編集技術を磨くためにミュージックビデオの作成をした。共通の音楽を決めて、各自の解釈でシナリオを作り、各自が MV を作った。

（その 8）タテ型動画の研究と制作

今年はさらにタテ型画面の動画の市場が拡大すると言われている。タテ型画面に合うテーマも含めて研究し、実際に撮影した。



＜実態調査・見学調査・講演会＞
対象演習：A・B
実 施 日：2024 年 6 月 23 日(日)
実施都市：千葉県千葉市
実施場所：千葉大学医学部附属病院・他
実施内容：TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」にエキストラ参加
成　　果：プロの撮影現場の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 6 月 29 日(土)
実施都市：千葉県千葉市
実施場所：幕張国際研修センター・他
実施内容：TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」にエキストラ参加
成　　果：医療研修シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 7 月 3 日(水)
実施都市：東京都台東区
実施場所：上野駅周辺
実施内容：TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」にエキストラ参加
成　　果：群衆シーンのプロの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 7 月 20 日(土)
講 演 者：阪口 創 氏（株式会社 ABEJA）
演　　題：AI でドラマを作る方法
実施施設：中央大学　多摩キャンパス GG604 教室
実施内容：AI の技術会社の人の特別講義
成　　果：AI の現状と AI でドラマを作ることの見識が深まった。

対象演習：A
実 施 日：2024 年 9 月 4 日(水)
実施都市：東京都武蔵野市
実施場所：ルームルーム吉祥寺 B
実施内容：「家族」についてのドラマ撮影
成　　果：脚本をどう映像化するか、屋内での家族をどう撮るかの学びとなった。

対象演習：A
実 施 日：2024 年 9 月 6 日(金)
実施都市：東京都武蔵野市
実施場所：ルームルーム吉祥寺 B
実施内容：「家族」についてのドラマ撮影
成　　果：脚本をどう映像化するか、屋内での家族をどう撮るかの学びとなった。

対象演習：A
実 施 日：2024 年 9 月 11 日(水)
実施都市：東京都大田区
実施場所：ねこパン Lab
実施内容：「家族」についてのドラマ撮影
成　　果：脚本をどう映像化するか、屋内での家族をどう撮るかの学びとなった。

対象演習：A
実 施 日：2024 年 9 月 16 日(月)
実施都市：東京都大田区
実施場所：ねこパン Lab
実施内容：「家族」についてのドラマ撮影
成　　果：脚本をどう映像化するか、屋内での家族をどう撮るかの学びとなった。

対象演習：A
実 施 日：2024 年 9 月 19 日(木)
実施都市：東京都世田谷区
実施場所：064_fika 世田谷公園
実施内容：「家族」についてのドラマ撮影
成　　果：脚本をどう映像化するか、屋外での家族をどう撮るかの学びとなった。

対象演習：A
実 施 日：2024 年 9 月 22 日(日)
実施都市：東京都日野市
実施場所：多摩川河川敷公園・他
実施内容：「家族」についてのドラマ撮影
成　　果：脚本をどう映像化するか、屋外での家族をどう撮るかの学びとなった。

対象演習：A
実 施 日：2024 年 9 月 29 日(日)
実施都市：東京都日野市
実施場所：多摩川河川敷公園・他
実施内容：「家族」についてのドラマ撮影
成　　果：脚本をどう映像化するか、屋外での家族をどう撮るかの学びとなった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 10 月 26 日(土)
講 演 者：新井　一樹 氏（株式会社シナリオセンター）
演　　題：物語の作り方
実施施設：中央大学　多摩キャンパス GG604 教室
実施内容：ストーリーの作り方の特別講義
成　　果：ドラマ、ドキュメンタリー、ゲームに共通するストーリーの作り方の基礎を学ぶことができた。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 12 月 14 日(土)
実施都市：東京都品川区
実施場所：ThinkPark Tower
実施内容：山田洋次×石井ふく子特別企画ドラマ「わが家は楽し」にエキストラ参加
成　　果：会社のシーンのロケの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 12 月 17 日(火)
実施都市：東京都多摩市
実施場所：宝野公園
実施内容：ドラマ「わが家は楽し」にエキストラ参加
成　　果：サッカーシーンのロケの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 12 月 21 日(土)
実施都市：神奈川県横浜市
実施場所：TBS 緑山スタジオ
実施内容：ドラマ「わが家は楽し」の見学調査
成　　果：セットの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2025 年 2 月 12 日(水)
実施都市：東京都渋谷区・他
実施場所：めいどりーみん渋谷～秋葉原～白金パークサイドアパートメント
実施内容：AI ドラマのロケ撮影およびエキストラ参加
成　　果：AI ドラマのロケ作業の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2025 年 2 月 13 日(木)
実施都市：東京都新宿区
実施場所：柏木公園～ココチーノ西新宿店
実施内容：AI ドラマのロケ撮影およびエキストラ参加
成　　果：AI ドラマのロケ作業の理解が深まった。

ＦＬＰ演習Ｂ・Ｃ

＜テーマ＞

①映像リテラシー
②ジャーナリズムとドラマとドキュメンタリー
③自分のメッセージ（ドラマ制作）
④テレビと SNS

＜授業の概要＞

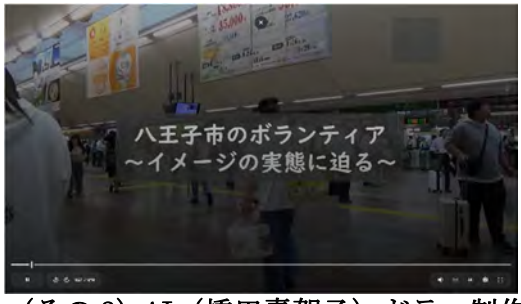
①このゼミでは、1 つの作品（ストーリー）の中でどんな映像表現がどのように使われているかを分析することで、映像表現を身に着けます。
英語の学習に「英文法」「英作文」「英文読解」とあるとすれば、「英文読解（精読）」にあたると考えてください。
さらに、映像表現をものにするためには、「多読」も必要です。たくさんの名作（映画、ドラマ、ドキュメンタリー）を観てもらいます。
②優れた映像（ドラマ）作品は、ジャーナリスティックな感覚と時代性に富んでいます。
「今の時代」をどうつかむかの感覚を磨きたいと思います。
そのために街頭インタビューやドキュメンタリーの勉強もします。
③リテラシーを勉強する中で、自分とは何か、自分のメッセージとは何かがきっと見えてくるではずです。
そうしたら、そのメッセージを映像にしましょう。
ドラマ制作に挑戦します。
④SNS の時代ですが、テレビは力を持ち続けています。今後のメディアについて考察します。

＜活動内容＞

今年度の活動は、大きく 2 つ。
ひとつは、ドキュメンタリー制作に臨むこと、そしてもうひとつは例年実施しているドラマ制作。ドラマ制作に関しては、AI が作った脚本をドラマ化するという橋田文化財団の試みに参加協力することで AI とドラマについての見識を深めるというものであった。

（その 1）ドキュメンタリー制作について

昨年度、八王子で行った年末の街頭インタビューで、「八王子の特徴として、ボランティア活動が盛んである」という声を複数聞いていたので、「八王子になぜボランティア活動が多いのか」ということをドキュメンタリー制作を通して検証してみた。結論から言うと、八王子には高齢者が多いが、若い世代もいて、高齢者をボランティアで支える八王子市の様子が見えてきた。もちろん福祉ボランティアだけではなくさまざまなものもあり、それはいろいろな世代が生活していることにもよると言える。



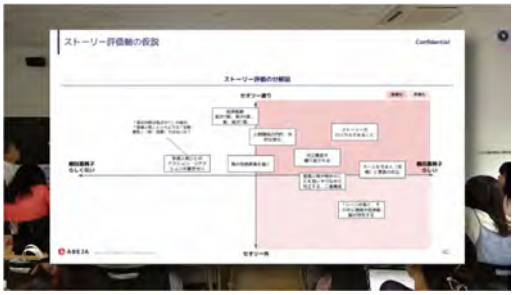
（その 2）AI（橋田壽賀子）ドラマ制作について

AI がドラマ制作をすると言っても、方向性やテーマは人間が決めなければならない。橋田壽賀子ドラマの基本は、家族と世代の対立。学生たちと一緒に「どんなときに親と価値観が対立するか」ということを考えた。学生たちから上がってきたテーマが「ファッション」。このドラマは、2025 年 5 月 10 日に橋田壽賀子生誕 100 年記念橋田賞授賞式で初めて公表される

ため、詳細は控えるが、テーマに基づき、学生たちはいろいろな取材をした。
それを踏まえて、AI 橋田壽賀子が脚本を書き、プロの俳優を使って、撮影をおこなった。撮影はプロのスタッフがメインで行ったが、撮影補としてカメラの撮影をするなど、学生も参加した。

（その 3）AI についての特別講義

AI 橋田壽賀子プロジェクトを促進している AI 技術会社（ABEJA）から担当者を招き、AI の現状と AI 橋田壽賀子プロジェクトの概要を技術的観点から講義をしてもらった。



（その 4）ストーリーの作り方の特別講義

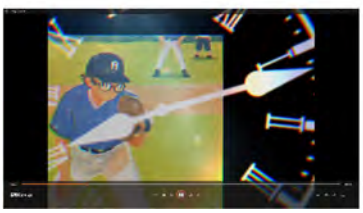
ドラマであれ、ドキュメンタリーであれ、メッセージを伝えるためにはストーリーが必要である。ストーリーを教えるプロ、たくさんのプロの脚本家を輩出しているシナリオセンターから特別講師（新井一樹氏）を招き、ストーリーの作り方の基本を学習した。

（その 5）ドラマ撮影現場の見学調査

TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」および山田洋次×石井ふく子特別企画「わが家は楽し」の撮影現場の見学調査。監督や俳優に直接話を聞き、エキストラで参加するなど、プロのロケーションやスタジオ撮影の理解を深めた。

（その 6）ミュージックビデオの作成

映像を作る上で、編集はとても大切であるため、編集技術を磨くためにミュージックビデオの作成をした。共通の音楽を決めて、各自の解釈でシナリオを作り、各自が MV を作った。AI を使って作成したり、驚くほどの映像センスとストーリー性を発揮する者も出てきて、プロのクリエーターたちの話題にもなっている。



＜実態調査・見学調査・講演会＞
対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 5 月 8 日(水)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：八王子市社会福祉協議会 ボランティアセンター
実施内容：ドキュメンタリー撮影
成　　果：「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」というテーマに迫ることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 5 月 16 日(木)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：北野市民センター
実施内容：インタビュー収録
成　　果：ドキュメンタリー「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」の作成上、貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 5 月 18 日(土)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：西放射線ユーロード
実施内容：街頭インタビュー収録
成　　果：ドキュメンタリー「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」のための基礎インタビューを撮ることができた。

対象演習：B
実 施 日：2024 年 5 月 19 日(日)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：特定非営利活動法人八王子つばめ塾　元横山教室
実施内容：ボランティアで学習塾を運営している人のインタビュー撮影
成　　果：ドキュメンタリー「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」を作成する上で貴重なコメントを撮ることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 5 月 20 日(月)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：子ども食堂 カフェ北野
実施内容：ボランティアで子ども食堂を運営している方々のインタビュー撮影
成　　果：ドキュメンタリー「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」を作る上で貴重なコメントを撮ることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 5 月 21 日(火)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：子安市民センター
実施内容：ボランティアについてのインタビュー撮影
成　　果：ドキュメンタリー「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」の構成上、貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 5 月 27 日(月)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：八王子市役所 高齢者いきいき課
実施内容：高齢者支援のボランティアの取材
成　　果：八王子の高齢者支援の実態の理解が深まった。

対象演習：C
実 施 日：2024 年 5 月 31 日(金)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：大横保健福祉センター
実施内容：福祉ボランティアについての取材
成　　果：ドキュメンタリー「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」の作成上、貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：C
実 施 日：2024 年 6 月 5 日(水)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：大横保健福祉センター
実施内容：福祉ボランティアについての取材
成　　果：ドキュメンタリー「八王子はなぜボランティア活動が多いのか」の作成上、貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 6 月 5 日(水)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：特定非営利活動法人八王子つばめ塾　八王子駅前教室
実施内容：ボランティアで学習塾を運営しているところの取材＆撮影
成　　果：つばめ塾のもうひとつの教室を取材し、ドキュメンタリーの幅が広がった。

対象演習：A・B
実 施 日：2024 年 6 月 23 日(日)
実施都市：千葉県千葉市
実施場所：千葉大学医学部附属病院・他
実施内容：TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」にエキストラ参加
成　　果：プロの撮影現場の理解が深まった。

対象演習：C
実 施 日：2024 年 6 月 27 日(木)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：大横保健福祉センター
実施内容：福祉ボランティアの取材＆撮影
成　　果：ドキュメンタリー「八王子になぜボランティアが多いのか」の構成の幅が広がった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 6 月 29 日(土)
実施都市：千葉県千葉市
実施場所：幕張国際研修センター・他
実施内容：TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」にエキストラ参加
成　　果：医療研修シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 7 月 3 日(水)
実施都市：東京都台東区
実施場所：上野駅周辺
実施内容：TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」にエキストラ参加
成　　果：群衆シーンのプロの撮影の理解が深まった。

対象演習：C
実 施 日：2024 年 7 月 7 日(日)
実施都市：千葉県千葉市
実施場所：千葉大学医学部附属病院
実施内容：TBS 日曜劇場「ブラックペアン 2」にエキストラ参加
成　　果：医療シーンの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 7 月 20 日(土)
講 演 者：阪口 創 氏（株式会社 ABEJA）
演　　題：AI でドラマを作る方法
実施施設：中央大学　多摩キャンパス GG604 教室
実施内容：AI の技術会社の人の特別講義
成　　果：AI の現状と AI でドラマを作ることの見識が深まった。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 7 月 24 日(水)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：一般社団法人オレンジハウス
実施内容：高齢者ボランティアの取材＆撮影
成　　果：ドキュメンタリー「八王子になぜボランティアが多いのか」の貴重なインタビューを撮ることができた。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 8 月 20 日(火)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：一般社団法人オレンジハウス
実施内容：高齢者ボランティアに関しての追加取材
成　　果：ドキュメンタリー「八王子になぜボランティアが多いのか」の構成の幅が広がった。

対象演習：B・C
実 施 日：2024 年 9 月 14 日(土)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：長池公園
実施内容：自然と触れ合うボランティアの人たちの取材と撮影
成　　果：ドキュメンタリー「八王子になぜボランティアが多いのか」の構成の幅が広がった。

対象演習：C
実 施 日：2024 年 9 月 17 日(火)
実施都市：東京都八王子市
実施場所：長池公園
実施内容：自然と触れ合うボランティアの人たちの追加取材
成　　果：ドキュメンタリーの幅がさらに広がった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 10 月 26 日(土)
講 演 者：新井　一樹 氏（株式会社シナリオセンター）
演　　題：物語の作り方
実施施設：中央大学　多摩キャンパス GG604 教室
実施内容：ストーリーの作り方の特別講義
成　　果：ドラマ、ドキュメンタリー、ゲームに共通するストーリーの作り方の基礎を学ぶことができた。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 12 月 14 日(土)
実施都市：東京都品川区
実施場所：ThinkPark Tower
実施内容：山田洋次×石井ふく子特別企画ドラマ「わが家は楽し」にエキストラ参加
成　　果：会社のシーンのロケの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 12 月 17 日(火)
実施都市：東京都多摩市
実施場所：宝野公園
実施内容：ドラマ「わが家は楽し」にエキストラ参加
成　　果：サッカーシーンのロケの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2024 年 12 月 21 日(土)
実施都市：神奈川県横浜市
実施場所：TBS 緑山スタジオ
実施内容：ドラマ「わが家は楽し」の見学調査
成　　果：セットの撮影の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2025 年 2 月 11 日(火)
実施都市：東京都港区
実施場所：白金パークサイドアパートメント
実施内容：AI ドラマの撮影の打ち合わせおよびロケハン
成　　果：AI ドラマの作業の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2025 年 2 月 12 日(水)
実施都市：東京都渋谷区・他
実施場所：めいどりーみん渋谷～秋葉原～白金パークサイドアパートメント
実施内容：AI ドラマのロケ撮影およびエキストラ参加
成　　果：AI ドラマのロケ作業の理解が深まった。

対象演習：A・B・C
実 施 日：2025 年 2 月 13 日(木)
実施都市：東京都新宿区
実施場所：柏木公園～ココチーノ西新宿店
実施内容：AI ドラマのロケ撮影およびエキストラ参加
成　　果：AI ドラマのロケ作業の理解が深まった。